



平成30年度アスジャ・インターナショナル主催  
アセアン国費留学生と日本人大学生との  
国際交流ワークショップ

**募集要項**





写真：2014年度アセアン文化交流事業「アセアン文化祭典」

## アセアンとは？

アセアン＝**東南アジア諸国連合**(Association of South-East Asian Nations, ASEAN)は、東南アジアにおける地域協力機構である。

経済成長、社会・文化の発展、政治の安定などを目的に、1967年の「バンコク宣言」によって設立された。

現在、東南アジアの10ヶ国が加盟している。

<加盟国>

インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス



アスジャ・インターナショナル主催

## アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ

### 掲載内容

アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップとは

ワークショップの進め方

グループワーク

ワークショップのねらい

レクチャー

講師紹介

ファシリテーション・チーム、学生支援チーム紹介

期待される効果

アスジャ・インターナショナルについて

概要、組織・運営、事業内容

参加者の感想

過去のワークショップの様子

スケジュール

募集要項

実施概要

日本人大学生の参加資格および条件

申込方法

アスジャ・インターナショナル事務局への申込書提出締切

問い合わせ先



写真：2017年度開催のワークショップより

## アセアン国費留学生と日本人大学生との 国際交流ワークショップとは

将来のアセアン各国のリーダー候補としてアスジャ・インターナショナルが受け入れているアセアン国費留学生と、日本のグローバル人材として活躍を期待される日本人大学生が、国立オリンピック記念青少年総合センターにおける3泊4日の宿泊交流を通じ、お互いの国の文化や日本とアセアンの将来の課題、国際協力について、英語による意見交換を行い相互理解を深める。

朝から晩まで英語によるコミュニケーションが続く合宿生活を送ることで、都内にいながらにして留学体験が味わえる。

アスジャ・インターナショナルが2014年度から新規で開催し、2017年度は上智大学、東京外国語大学、千葉大学、慶應義塾大学、京都大学、埼玉大学から日本人大学生18名が参加した。アセアン国費留学生は38名が参加した。

### キーワード：

- ✓ アセアン国費留学生
- ✓ 日本人大学生
- ✓ アセアン
- ✓ 東南アジア
- ✓ グローバル人材
- ✓ 合宿形式
- ✓ ワorkshop
- ✓ 英語による意見交換
- ✓ 相互理解
- ✓ アスジャ・インターナショナル

### アスジャ国費留学生とは？

文部科学省の奨学金を得て日本の大学の大学院・学部で学ぶためにアセアン加盟10ヶ国から来日し、アスジャ・インターナショナルが受け入れている外国人留学生。



## アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップとは



- ✓ アスジャ・インターナショナルが受け入れているアセアン10カ国の国費留学生と、グローバル人材を目指す日本人大学生との国際交流
- ✓ 国立オリンピック記念青少年総合センターでの英語合宿
- ✓ 日本・アセアンをテーマに行うディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
- ✓ 都内にいながらにして味わえる留学体験
- ✓ お互いの国の文化、各国の将来や課題、国際協力について意見交換を行い、相互理解を深める。

### ワークショップ (workshop) とは？

多様な文化や資質を持った人たちが、全員参加型の協働作業を行い、相乗効果を生みながら問題解決や創造、学びを行う手法。

近年、留学生と日本人学生が共に学ぶ「国際共修」への関心が高まりつつあるが、その手法としてワークショップが採りいれられている。

言語・文化の異なる学生同士が、互いを理解し自己を確立するための、問題解決力・コミュニケーション力・創造力を育てる人材育成ツールとして、高等教育現場での積極的な採用が期待されている。



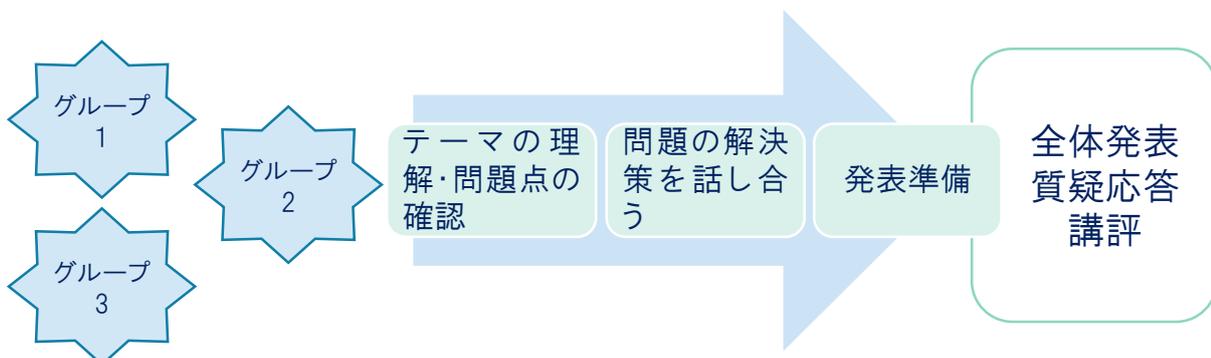
# Workshop

写真：2017年度開催のワークショップより

## ワークショップの進め方

- ◆ グループごとのディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどのワークショップを、プロジェクト形式で実施する。
- ◆ レクチャーやファシリテーションを提供し、学生同士の積極的な議論を促進する。
- ◆ グループワーク終了後、全体発表会(プレゼンテーション)を行い、質疑応答・講評を通して、プロジェクトにおけるPDCAサイクル\*についても学ぶ機会を提供する。

\*PDCAサイクル：「計画」(Plan)、「実行」(Do)、「点検」(Check)、「改善」(Act)の頭文字をとったプロジェクト管理手法のひとつ。業務を継続的に改善するために企業等で導入されている。



## グループワーク

アセアン国費留学生と日本人学生との混合グループによるプロジェクト形式を採用

～ 1グループを10人程度で構成 ～

- アイスブレイク: グループメンバーがお互いを知る
- ステップ1: テーマの理解と問題点の確認作業
- ステップ2: 問題の解決策について議論
- ステップ3: 発表準備(レジュメ作成等)
- 全体発表(プレゼンテーション)、質疑応答、講評

- ディスカッション
- グループワーク

- レクチャー
- ファシリテーション

- プレゼンテーション
- 質疑応答・講評



プロジェクトにおけるPDCAについて学ぶ

写真: 2016年度開催のワークショップより



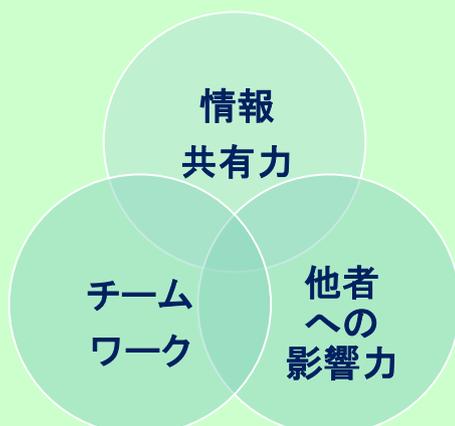
写真：2017年度開催のワークショップより

## アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流 ワークショップのねらい

◆ 将来日本・アセアン各国でリーダーとしての活躍を期待される大学生の、  
グローバル環境下におけるコミュニケーション能力を高めるため、

1. 情報共有力
2. チームワーク
3. 他者への影響力(リーダーシップ等)

を醸成し、社会の変化に対応できる汎用的な能力を身につける機会を提供する。



### キーワード:

- ✓ 多様性
- ✓ 協働作業
- ✓ 問題解決力
- ✓ コミュニケーション力
- ✓ 創造力
- ✓ 国際共修
- ✓ 人材育成

## レクチャー

- ◆ 日・アセアン関係の専門家を講師として招き、現場での実務経験談や専門知識の解説を行う。
- ◆ 学生同士の積極的な議論を促進し、学生のキャリア意識を高める場を提供する。



### <過去のレクチャー>

- ▶ 2015年度 「Japan's Views and Perspective on ASEAN Economy」  
経済産業省通商政策局アジア大洋州課  
課長補佐 植田 一全氏
- ▶ 2016年度 「ASEAN-Japan Economic Cooperation」  
経済産業省通商政策局アジア大洋州課  
課長補佐 伊藤 充洋氏

## 2018年度レクチャー

### 講師紹介 小川 郷太郎 氏



- アスジャ・インターナショナル日本理事
- 元駐カンボジア特命全権大使、元駐デンマーク特命全権大使
- 1968年外務省入省。2007年に退官。
- 40年近い外交官生活のうち、23年間に海外（フランス2回、デンマーク兼リトアニア、旧ソ連、フィリピン、韓国、カンボジア、ホノルル）で過ごす。外務本省では、条約局、経済局、経済協力局、国際情報局、欧亜局に勤務。また、外務大臣秘書官、国際協力機構（JICA）総務部長なども歴任。最後の任務は「イラク復興支援担当大使」として、イラクや中東諸国を行き来した。



写真： 2017年度開催のワークショップ・レクチャーより

## ファシリテーション・チーム紹介

- 日本・アセアン・英国の大学院において、修士号・博士号を取得したメンバーによるファシリテーションを実施
- 「アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ」経験者

チーム・メンバー1	
国籍	インドネシア
学士課程	アンダラス大学(インドネシア)
修士課程	長岡科学技術大学大学院
博士課程	長岡科学技術大学大学院
最終学位	環境システム工学修士
現在	長岡科学技術大学大学院エネルギー・環境工学専攻博士課程2年

チーム・メンバー2	
国籍	マレーシア
学士課程	マレーシア工科大学(マレーシア)
修士課程	マレーシア工科大学大学院(マレーシア)
博士課程	九州大学大学院
最終学位	電気電子工学博士
現在	長崎大学工学研究科電気・情報科学部門研究員

チーム・メンバー3	
国籍	ミャンマー
学士課程	マンダレー歯科大学(ミャンマー)
修士課程	N/A
博士課程	東京医科歯科大学大学院
最終学位	口腔外科博士
現在	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学専攻博士課程4年

チーム・メンバー4	
国籍	インドネシア
学士課程	サムラトウランギ大学(インドネシア)
修士課程	東京海洋大学大学院
博士課程	東京海洋大学大学院
最終学位	海洋環境保全学修士
現在	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科博士後課程応用環境システム学専攻1年

チーム・メンバー5	
国籍	ラオス
学士課程	ラオス国立大学(ラオス)
修士課程	東京国際大学大学院
博士課程	東京国際大学大学院
最終学位	経済学修士
現在	東京国際大学大学院経済研究科経済専攻博士課程1年

チーム・メンバー6(チーム統括)	
国籍	日本
学士課程	千葉大学
修士課程	バーミンガム大学大学院(英国)
博士課程	N/A
最終学位	国際教育学修士
現在	アスジャ・インターナショナル事務局スタッフ

## 学生支援チーム紹介

- ワークショップ参加期間中の学生支援を実施(日本語対応可)
- 「アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ」経験者

チーム・メンバー1	
国籍	ブルネイ
学士課程	ブルネイ大学(ブルネイ)
修士課程	一橋大学大学院
最終学位	初等英語教育学士
現在	一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻人間・社会形成研究分野修士課程2年

チーム・メンバー2	
国籍	マレーシア
学士課程	群馬大学
修士課程	N/A
最終学位	N/A
現在	群馬大学医学部医学科4年

チーム・メンバー3	
国籍	インドネシア
学士課程	大阪大学
修士課程	N/A
最終学位	N/A
現在	大阪大学基礎工学部情報科学科3年

チーム・メンバー4(全体統括)	
国籍	日本
学士課程	早稲田大学
修士課程	ウォーリック大学大学院(英国)
最終学位	国際政治経済学修士
現在	アスジャ・インターナショナル事務局主幹





写真：2017年度開催のワークショップより

# Expected Effects

## 期待される効果 — 大学生全体 —

### 日本とアセアン各国との相対化

大学生が自国を客観視し、各国の問題意識を理解する。

### 多様な価値観の中で協働するためのイメージをつかむ。

宗教から民族、言語にいたるまでの多様性を持つアセアンからの留学生と、日本人大学生とが、グループによるワークショップを通して、将来異なる国籍の人間同士で仕事する環境のイメージをつかむ。

### 限られた状況・環境下において活躍するための肉体的・精神的な力を身につける。

国立オリンピック記念青少年総合センターでのプログラムや、団体行動、英語でのコミュニケーション体験を通じて、適応力や柔軟な思考力を高める。

### ～ 事後感想文に寄せられた参加者からのコメント ～

- 自分とは異なる視点に触れ、視野を広げるきっかけになった。
- 事業終了後もSNS等で連絡を取りあうネットワークも構築できた。現在も交流が続いている。

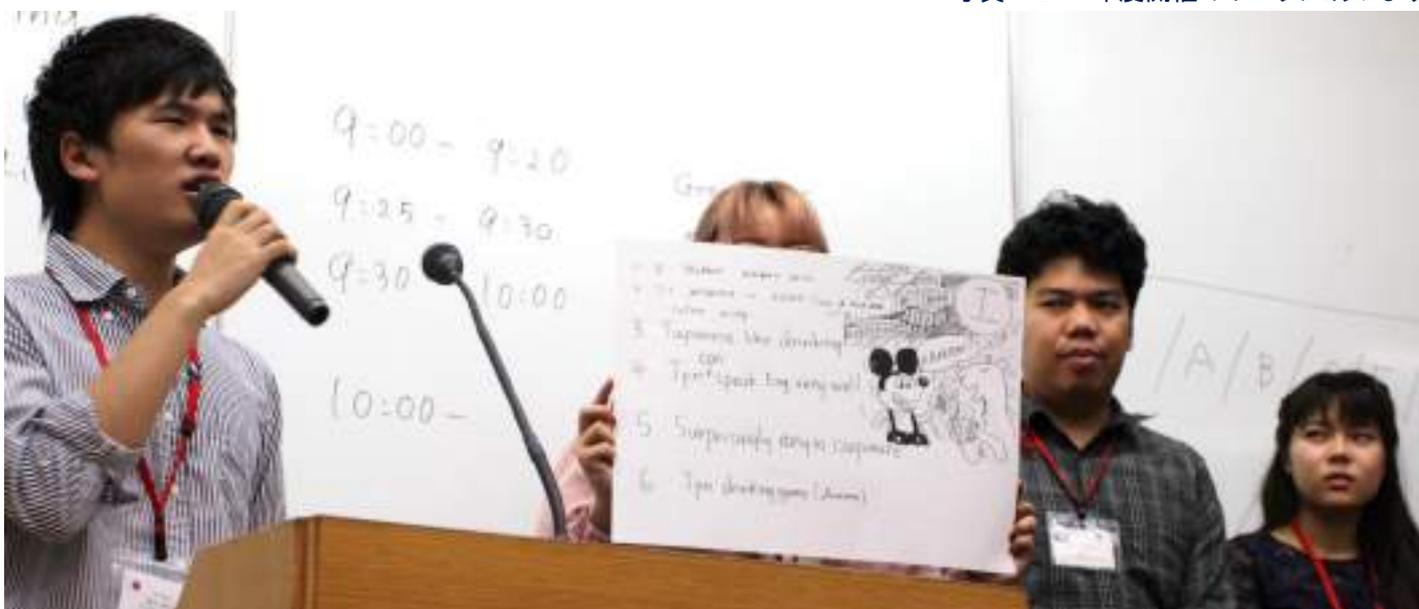
## 期待される効果 — 日・アセアン別 —

日本人大学生	アセアン国費留学生
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自らが発信主体になることの重要性を認識し、英語力を強化する。 ～グローバル人材として外国人とかわかっていくには、交渉力や情報発信力、自己表現力の開発が必要不可欠～</li> <li>◆ 外国人、とくにアセアン留学生の学びに対する積極的な姿勢に触れ、日アセアン関係を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 日本人大学生との合宿・ディスカッションを通して、日本を体験的に理解する。 ～日本人の考え方、価値観、自然環境、生活習慣、宗教観や歴史認識～</li> <li>◆ 自国と日本との違いを日本人に発信し、理解を求めるコミュニケーション力の必要性を認識する。</li> </ul>

自国と相手国との違いを体験的に認識することで、  
自国の事情に対する理解をより深める。  
自分にとっての「母国」を再発見する。

～ グローバル人材になるには、確固たる自己も必要 ～

写真： 2017年度開催のワークショップより



## 期待される効果 ～ 参加者から寄せられたメッセージより ～

### <日本人大学生より>

- アスジャ生の当事者意識に圧倒された。彼らにとって政治や社会問題は大変身近で、自分たちが解決しなければならないと思っている。自分も時事問題により敏感になった。
- 留学生との交流にはこれまでも参加しているが、アスジャのワークショップのようにアカデミックなテーマで、英語でディスカッションするものはあまりなかった。将来留学を考えているので、留学先での様子が想像できてとてもよかった。
- この事業をきっかけとして、言語能力や情報発信力を高めようと思い努力するようになった。英語力もさらに強化したい。

### <アセアン国費留学生より>

- 様々な国や専攻の学生とディスカッションすることで、考え方の違いを理解することができた。また、自分の専門分野以外のテーマについても勉強することができた。
- 日本政府の外交政策や、日本人のアセアン諸国に対する見解について理解を深めることができた。
- 日本人はまじめで礼儀正しく控えめで、あまり話さないという印象をもっていたが、自分の意見を積極的に上手な英語で話す日本人学生が多くいることがわかった。普段の大学生活では日本人学生と話す機会が少ないので、ワークショップで日本人と友だちになれてうれしかった。

写真： 2017年度開催のワークショップより





写真： アスジャ・インターナショナル主催「ASEAN設立50周年記念事業－ASEAN Bonded as One－」（2017年度開催）

## アスジャ・インターナショナルについて

### 概要

1. アスジャ・インターナショナル ASJA(Asia Japan Alumni) International (以下、アスジャという)は、**2000年4月に設立**された国際的な組織である。当初5カ国で発足し、**現在10カ国**(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス、ブルネイ)が加盟している。
2. アスジャは、**日本国外務省**の拠出金を受けて、**アセアン元日本留学生評議会(ASCOJA\*)**に加盟する各国元日本留学生会が推薦する奨学生制度を運営してきた。日本の大学院における教育研究を支援するとともに、留学生に**日本語習得及び日本文化・日本人を理解する機会を提供し、将来の日本とアセアンとの架け橋となるリーダーを育成**することを目的としている。各国1名の奨学生を受入れ、2017年度までの修了生は137名である。
3. 2009年の「事業仕分け」を受け従前のアスジャ奨学金制度は廃止されたが、2014年度の政府予算において新たに「**アセアン留学生交流等拠出金**」が計上され、**文部科学省国費留学生として奨学金を受給しているアセアンからの留学生**を対象に、交流事業は引き続き実施できることになった。2018度はアセアン10カ国から各国元日本留学生会が推薦した国費留学生(大学院生、学部生) 20名をアスジャ国費留学生として採用した。これにより、2018年度のアスジャ国費留学生は、大学院生67名、学部生11名の計78名である。

アスジャは2000年の設立以来、福田康夫元内閣総理大臣のご指導・ご支援をいただいで運営してまいりました。

## \* ASCOJA (ASEAN Council of Japan Alumni)

- 1974年に故福田赳夫元首相(当時の大蔵大臣)の呼びかけで始まった、外務省招聘事業「東南アジア元日本留学者の集い」で交流を深めた各参加者たちが中心となり、ASEAN各国の元日本留学者同士の交流を目的として1977年6月に設立された。
- 元日本留学者が組織するASEAN各国の元日本留學生協会の連合体組織であり、各国において日本文化・日本語などの普及活動を、日本大使館と連携しつつ実施している。
- 現在の加盟国は、ASEAN10カ国である。(インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオス)

## 組織・運営

### (1) 理事会

- ① ASCOJA加盟国10カ国より各国1名の理事、及び日本側の顧問・理事によって構成される、最高意思決定機関である。
- ② 事業計画案、予算案、事業報告及び収支決算報告等を審議するため、年に2回開催される。(うち1回は書面審査)

### (2) 事務局

- ① 事務総長は理事会により任命され、事務局は、事業計画案、予算案等を作成し、理事会の承認を得て実施する。

#### <事務局の構成>

事務総長 佐藤次郎 ((一財)日本語教育振興協会理事長)

専任職員他 5名

- ② 事務局は、独立行政法人日本学生支援機構東京日本語教育センター(東京都新宿区北新宿3丁目22番7号)に設けられている。

<理事会名簿> 第10期：2018年4月 ～ 2020年3月

顧問	田島 高志氏	元駐カナダ特命全権大使 元駐ミャンマー特命全権大使
日本理事	小川 郷太郎氏	元駐カンボジア特命全権大使 元駐デンマーク特命全権大使
インドネシア理事	ヒデキ・アマンク氏 Mr. Hidekie Amangku	インドネシア元日本留学生協会(PERSADA)事務局長
マレーシア理事	シアウ・クアン・リン氏 Dato Dr. Siow Kuan Ling	マレーシア元留日学生協会(JAGAM)副会長、元同会長
フィリピン理事	パウエル・デル・ロザリオ氏 Mr. Powell A. Del Rosario	フィリピン元日本留学生連盟(PHILFEJA)副会長
シンガポール理事	イー・ジェンエン氏 Mr. Yee Jenn En	シンガポール留日大学卒業生協会(JUGAS)会長
タイ理事	プッサディー・ナワウィチット氏 Ms. Bhusdee Navavichit	タイ王国元日本留学生協会(OJSAT)会長
ミャンマー理事	ミョー・キン氏 Prof. Dr. Myo Khin	ミャンマー元日本留学生協会(MAJA)会長
カンボジア理事	ブテイ・モニラ氏 Dr. Vuthy Monyrath	カンボジア元日本留学生協会(JAC)会長 ASCOJA議長
ベトナム理事	ゴ・ミン・トウイ氏 Dr. Ngo Minh Thuy	ベトナム元日本留学生協会(JAV)会長
ラオス理事	パンヤ・チャントボン氏 Mr. Panya Chanthavong	ラオス元日本留学生会(JAOL)会長
ブルネイ理事	ナジミナ・ファイルーズ・アブドゥル・ラティフ氏 Ms. Hajah Najmina Fairuz Binti Haji Abd Latif	アスジャ理事会議長 ブルネイ元日本留学生会(BAJA)会長
事務総長	佐藤 次郎氏	(一財)日本語教育振興協会理事



写真：第30回アスジャ・インターナショナル理事会

## 事業内容

### (1) 留学生支援(交流事業)

#### オリエンテーション及び歓迎会(2000年度より実施)

アスジャ設立趣旨、アスジャ事業の理解を深め、留学生同士の交流を図る。

#### 国際理解教育(2000年度より実施)

アスジャ国費留学生の自国文化、習慣を紹介し、日本人児童・生徒との交流を図る。

#### ホームステイ(2000年度より実施)

新入生を対象に約1週間の日本人の家庭生活を通じ、日本文化、生活習慣を体験し理解する。

#### 日本文化体験(2004年度より実施)

日本の伝統文化(歌舞伎、能楽、茶道等)に触れる機会を設け、日本文化の理解を深める。

#### 地方産業文化体験(2015年度より実施)

アスジャ国費留学生の2年生、3年生を対象に、3泊4日で地方に出かけ、日本の企業見学・企業と学生のマッチング、地方文化体験等を行い、日本理解を深める。

#### アセアン祭り(留学生自主事業)(2003年度より実施)

アスジャ国費留学生による企画、実施の事業。自国の概要、料理、民族衣装等を日本人や他の留学生たちに紹介する。

#### 修了式及び活動報告(2000年度より実施)

アスジャ国費留学生としての修了式と留学生より研究成果等の発表等を行う。

#### アセアン国費留学生と日本人大学生との国際交流ワークショップ(2014年度より実施)

アスジャ国費留学生と日本の大学生が宿泊交流を通じ、お互いの国の文化や日本とアセアン各国の課題や協力について英語で意見交換を行い、相互理解を深める。



能楽体験@杉並能楽堂



日本人大学生との国際交流ワークショップ



地方産業文化体験@毛越寺

## (2) ASCOJA各国元日本留学生会の活動の支援

### ① 留学生会指導者等の招聘

毎年東京でアスジャ理事会を開催する。また、理事会開催期間中にASCOJA幹部会開催の支援を行う。

### ② ASCOJA総会、ASCOJA幹部会への参加

毎年開催されるASCOJA総会及びASCOJA幹部会に参加し、ASCOJA各国元日本留学生会と連携を深める。

## (3) アスジャ・ASCOJAネットワーク強化支援

### ① オンライン・プラットフォーム

アスジャがASCOJAとの一層の連携協力を図っていくとともに、ASCOJAネットワーク強化の支援のため、2015年度よりアスジャのサイト上でASCOJA関係情報を掲載する。

### ② アスジャ・ASCOJA分野別シンポジウム

人材交流、ビジネス交流等の分野別シンポジウムを、アスジャ・ASCOJA・開催国元日本留学生会との3者共催で、2015年度より実施している。



写真: 福田康夫元内閣総理大臣、堀井巖外務大臣政務官を迎えて開催された第23回ASCOJA総会@ブルネイ・ダルサラーム国



写真：2017年度開催のワークショップより

## 参加者の感想

\* 日本人大学生の所属大学名は参加当時

### 立花 慶さん(上智大学)

#### プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

私がこの事業を通して主に二つの成果を得ました。

一つ目は、積極性です。今回の交流事業を通して非常に数多くのことを学ぶことが出来たため、今後も同様の機会が合った際に積極的に参加したいと思うように至りました。

二つ目は、学習意欲です。ASEAN諸国の学生との議論を通して自分の世界諸問題の知識の不足を実感するに至りました。それによって、現在、大学生活においてあらゆる分野の勉強に対して以前より熱が入るようになりました。

#### 活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

主に二つあります。

一つ目は、グループワークで作業をしている際に、各人が自分の役割をしっかりと認識していたことです。私のグループでは、ネットでデータを探す人、議論を仕切る人、SWOT分析を行う人など役割分担が明確になされていました。私は、積極的に意見を発言することに徹していました。この経験は私にとって自分の強みを作る必要性を認識するきっかけとなり、大変印象深いものでした。

二つ目は、議論中に感じたASEANの国々の学生の母国を想う気持ちの強さです。彼らと議論している際には常に母国の経済状況を良くしたいという強い気持ちが感じられました。母国の抱える問題について良く把握していますし、それに対する意見や解決案を各自が持っていました。私は、ASEAN諸国の抱える問題、また、日本の抱える問題について知識を蓄える必要性を感じる事ができたため、非常に有意義で印象深い経験だと感じました。

**次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。**

私は、参加する日本人学生には積極的に議論に参加してもらいたいと思います。どれだけ積極的に議論に関わることが出来たかで、成長度合いが左右されると思います。英語が得意でなくても、説得力のある人には皆真摯に耳を傾けますし、また話そうと努力する過程で英語力の上達を実感できると思います。

私はこの交流事業終了後に日本人参加者と感想を共有したのですが、各人が何らかの学びを得ていました。英語力向上の目標が出来た人もいましたし、何事にも積極的に取り組むことの大切さを学んだ人もいました。是非とも積極的に議論に参加し実りある交流事業にってもらいたいと思います。

**石野 恵理さん(東京外国語大学)****プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。**

ASEANからの留学生と、ASEANの将来や日本との関係を考える機会は大変貴重でした。私は外大でインドネシア語を専攻していて、ASEAN10ヶ国からの留学生と意見を交換できたことが興味深かったです。どうしたらASEANが発展できるのか、というテーマ一つにしても、留学生と日本人学生では視点が異なっていたり、一緒だったり、今後専攻のインドネシアをはじめASEANを学ぶ際に、彼らの様に様々な視点から見ていきたいと感じました。

**活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。**

最終日のプレゼンテーションでの質疑応答についてです。日本がASEANへのODA援助を積極的に行っていることに関して議論になった時のことでした。そのとき、ASEANの留学生が、「ASEANは日本からODA援助を受けられて助かっている。もし今後もその援助を受けられるなら有難い。しかしそのお金はあなたたち日本から出ているのだから、本来はASEANへのODAのためではなく、日本のために使える。日本のみんなはどう思うか。」と尋ねられました。日本人としてどう考えるか、ということを求められたと感じました。ASEAN、日本両方にとってどう関係を良い方向にしていくのか、もし金銭面が求められるなら何が正しい判断なのか、両方の立場から考える必要があると感じた瞬間でした。

**次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。**

ASEAN諸国からの留学生と共に学べる機会はなかなかないです。私は大学でASEANを中心に学んでいるので、彼らとディスカッションやプレゼンテーションをして、とても刺激になりました。ASEANにもともと興味があった人はもちろん、そうでない人も、自分の視野が広がるきっかけになると思います。交流会もあり、留学生も日本人学生も楽しく親交を深めることができました。



## 鈴木 万葉さん(千葉大学)

### プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

この事業に参加する前から英語で行われる授業を取ったり、留学生と友達になったりして英語に触れ、話す機会はありましたが、なかなか慣れませんでした。この事業に参加して、24時間アスジャの学生と一緒に生活することでずっと英語を話さなければならない環境に身を置くことができ、英語を話すことを躊躇わなくなりました。今では、英語で日本人と話すと、外国に行ってたんですか？とよく聞かれます。外国どころか飛行機にも乗ったことがないですと答えると驚かれます。英語はもう話せるものだと自分で思い込んでどんどん使っていこうと思います。英語でのディスカッションは大変でしたが、予備知識があれば単語しか聞こえなくても理解できるということがわかり、語学はもちろん自分の専門分野の勉強にも力を入れようと思えました。

### 活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

ディスカッションの時わからなそうな顔をしていると、アスジャの留学生が分かりやすいように言い直してくれたり日本語を交えて説明してくれたりして助けてくれました。嫌な顔をせず私たちを置いていかないでちゃんと議論に参加できるように配慮してくれる温かい気持ちが伝わってきて嬉しかったですし、そういう態度を見て私ももっと彼らと分かり合いたいという気持ちになりました。また、彼らと仲良くなりすぎて一緒にいることが当たり前になってしまい普通に日本語で話かけてしまうなんてことが多々ありました。日本語がわからない子なのに伝わることもありました。友達になるのに言語も国籍も関係ないと思いました。

### 次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

英語を話せるようになるには外国に行かないといけないなんて嘘です。実際、私はこの夏1か月留学に行った友達よりも英語が話せる自信があります。それは、留学では日本人の留学生同士でいることが多く現地の学生と触れ合う機会が少ないのに対し、このプログラムはかなりアカデミックな内容のディスカッションが多くをしめていたからです。日本で合宿なんて意味ないと思わず参加すべきだと思います。アスジャの留学生はとても優しいです。英語の能力より必要なのは分かり合いたいという気持ちです。英語力なんかよりも大切なことを見つけることができるプログラムです。もちろん、参加する姿勢によりますが、頑張ってください。

## 手代木 秀太さん(群馬大学)

### プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

出身地域が異なると、政策や慣習に対する捉え方が大きく異なってくる。その様な多彩なバックグラウンドを持つ人々と、日本・ASEAN諸国がWin-Winの関係を得ることが出来るプランを考え、発表したことで、互いの持っていない部分を共有し、幅のある思考力を養うことが出来た。

また自分の専門である医学のフィールドに限らず、芸術や、経済など様々な視点を持った人々と知り合いになれたことで、今後自分の専門の枠を超えた発想をする契機にもなったのではないかと考える。貴重な友人づくりの場にもなった。

他にもビジネスの現場でのプレゼンを経験してきたASEAN各国の友人から、英語でのプレゼンテーションの方法論のアドバイスを貰ったことは貴重な経験であった。日本語で学生が行うプレゼンテーションとは一味違った間のつなぎ方や、独特の理論の構成の仕方を間近で体験し、発表を共に作り上げることが出来た。

### 活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

プロジェクトを考える際に、自分は日本の保険制度をASEAN諸国に導入することを考えたが、石油マネーによって医療費が無料である国があったり、国民が医療にかけたいと思う費用や質の違いが見られたりしたことが印象に残っている。日本とASEAN諸国間の差異だけでなく、ASEAN域内の国々でも医療制度に対する捉え方は異なり、一律の基準を設けることの難しさを感じた。この経験からは、自分の不勉強さを痛感すると同時に、自分の考える自国制度の長所が必ずしも広く世界に甘受されるものではないということを学んだ。いかに制度の優れている側面を異なる価値観を持つ地域に、分かりやすくメリットとして示すことが出来るのか。これは非常に難しい問題だと感じた。また一方で、自分が制度の長所と考えている点は果たして本当に長所であるのか、そんな疑問が惹起されより深く学んでみたいとも感じるようになった。

最終的には我々の提案するプロジェクトは食を通じた文化交流になったが、その中でも互いの文化や食に対する姿勢の何が双方にとっての利点であるのかが、宗教や国の経済力、食文化の知名度によって異なっており、非常に印象に残っている。

### 次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

日常会話の英語を磨くことは、英会話教室や英語でのドラマを視聴することで向上することが出来ますが、学生時代に英語でプロジェクトを考え、ビジネスの様に発表するという経験はこのプログラムに参加しない限りなかなか得ることの出来ないものであると思います。

またASEAN諸国を代表する優秀な皆さんや高い意識を持った日本人大学生と交流するまたとない機会です。このプログラムは自分の将来の糧となるだけでなく、非常に楽しい夏の思い出になるものでした。是非参加されることをおすすめします。

### 宮本 啓さん(早稲田大学)

#### プログラムを通して、どのような成果を得ることができましたか。

この事業を通じて3つの成果を得ることができました。1つ目は、グループリーダーを通じて得た、他人を配慮する力です。プレゼン準備中では、話し合いの方向性を決め、またメンバー全員が常に共通認識を持つように努めました。例えば、留学生が話す複雑な英語を、英語が苦手な日本人に日本語で説明してあげたり、日本人が複雑な説明をしたいときに、それを留学生に英語で説明してあげたりといったことです。2つ目は、ASEANと日本の関係へのさらなる興味、関心です。プレゼンテーション大会を通じて、ハラルフードしか食べられないイスラム教信者への日本の対応策や、ASEANと日本でのフードオリンピック、日本で働くASEANからの外国人へのビジネスマナー講座など、興味深いアイデアを知ることができました。これにより、「この先、急成長していくASEAN諸国と日本の関係をよりよくするにはどうすればよいか」ということを、自分の中で自然と考えられるようになりました。3つ目は、留学生の、大学での勉強への熱心さや、大学卒業後のキャリアプラン、将来の高い目標などを聞いたことで、自分の未熟さを痛感できたことです。それにより、私も皆に劣らず、自分の目標に向けて突き進んでいこうという気持ちを強く持つことができました。

#### 活動中、印象に残ったエピソードを教えてください。また、そのエピソードが印象に残った理由を教えてください。

印象に残ったのは、体育館でプレゼンテーションのグループメンバーでレクリエーションを行った時です。その時までには、プレゼンの進捗具合などを不安視して、グループ内にあまり良い雰囲気の流れが流れていなかったような気がしましたが、レクを通じてお互いに笑いあったことで、グループでの仲が良くなり、その後のプレゼン準備の雰囲気が明るくなったと思います。

#### 次回参加する日本人学生へのメッセージをお願いします。

ASEAN諸国の友達が欲しい方、外国人とのグループワークを通して自分の発言力やディスカッション能力を高めたい方、楽しく国際交流をしたい方、自分の英語力を上げたい方、留学生が持つ高い目標や野心などに刺激を受けたい方などには素晴らしい企画だと思うので、ぜひ参加していただきたいと思います。英語力が全くなくても参加することはできますが、私個人の意見としては、英語が喋れた方がコミュニケーションも円滑にとれるし、英語がしゃべれないよりは絶対的に楽しいので、参加前に英語力を鍛えておくことをお勧めします。また会議中は、己の挑戦の場だと思い、ミスを恐れずにどんどん積極的に発言をしてください。英語が拙くたって構わないです。伝わらなかつたら、もう1度丁寧に伝えればいいんです。プレゼン中も、自分に自信をもって、堂々と前に立ってスピーチした方が良いです。このイベントは、将来の自分に向けた準備イベントです。失敗したとしても誰もあなたを責めないし、なんのデメリットもありません。何もやらずに、失敗経験も成功経験も得られないことが一番もったいないことなので、とにかく自発的に動いてみましょう。がんばっている姿を見せれば、周りも協力してくれます。来年、より多くの日本人が参加してくれることを願っています。